

環境経営レポート 2024年度版

 株式会社 **東洋精機** 製作所

 **TOYOSEIKI**

－目次－

1. 組織概要	．．． 3
2. 対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間及び発行日	．．． 4
3. 環境経営方針	．．． 5
4. 環境経営目標	．．． 6
5. 環境経営活動	．．． 12
6. 環境経営目標の実績	．．． 15
7. 環境経営活動の取組結果とその評価、次年度の取組内容	．．． 16
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟の有無	．．． 23
9. 代表者による全体評価と見直しの記録	．．． 23

第1章 組織概要（事業所名、所在地、事業の概要、事業規模等）

（1）事業所名及び代表者名

株式会社東洋精機製作所 代表取締役社長 太田 好則

（2）所在地

本社CSセンター 〒114-8557 東京都北区滝野川5-15-4



(3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

役職	部署	担当者
環境管理責任者	品質保証室	室井 一男
事務局	管理部	笹部 正雄
	品質保証室	溝口 義浩、根岸 靖博、齋藤 侑志

連絡先 : TEL 03-5915-5013 FAX 03-5915-5014 (品質保証室)
TEL 03-3916-8188 FAX 03-3916-8313 (管理部)

(4) 事業内容 : 材料評価試験装置の開発・設計・製造・販売・修理

(5) 事業規模

[製品出荷実績] : 465台 (2024年度)

[従業員数] : 166人

第2章 対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間及び発行日

認証・登録番号 : 0000165 (2005年4月取得)

(1) 対象範囲

対象事業所

- 本社CS センター 〒114-8557 東京都北区滝野川5-15-4
- 東京工場 〒115-0051 東京都北区浮間5-4-23
- 舟渡サポートセンター 〒174-0041 東京都板橋区舟渡1-2-6
- 大阪支店 〒564-0044 大阪府吹田市南金田2-14-35 (中央社ビル)
- 名古屋支店 〒461-0003 愛知県名古屋市東区筒井3-30-12

(2) レポートの対象期間及び発行日

- ・対象期間 2024年4月1日～2025年3月31日
- ・発行日 2025年6月10日

第3章 環境経営方針（基本理念と環境活動方針）

基 本 理 念

当社は、地球環境問題が人類共通の重要課題との認識のもとに、全社をあげて環境との共生・調和に配慮した事業活動を自主的・積極的に推進し、環境負荷削減に向けて継続的改善に努めます。

地域の発展に協力して、地域社会との共生を図ります。また良き企業市民として社会貢献活動を行います。

環 境 活 動 指 針

当社は、材料試験機・測定機器の設計・開発・製造・販売・校正・修理などの事業活動を展開する中で、環境に対する「基本理念」を達成するために、一人ひとりが法を遵守し、モチベーションを高め、実効性のある環境マネジメント活動を全社で実践致します。

- ・製品の環境負荷の低減化に一層取り組みます。
- ・節電に努め、電気使用量の削減に取り組みます。
- ・ガソリン・水・梱包材など、使用する資源の削減に取り組みます。
- ・廃棄物の削減及び分別・リサイクル率の向上と、グリーン購入推進により資源の再利用に取り組みます。
- ・環境経営レポートを公表し、各階層との環境コミュニケーションを深めることに取り組みます。上記の環境方針・環境活動指針を全従業員に周知させ、環境目標を達成するよう推進いたします。

2025年4月25日制定

代表取締役社長 太田 好則

第4章 環境経営目標

4. 1 2024年度環境経営目標と実績の対比表

4. 1. 1 東京工場・舟渡サポートセンター・本社CSセンター

取組項目		基準値	2024年度目標	2024年度実績	増加・減少数 削減率（増減）
購入電力削減	東工	218,786 kWh (2023年度実績)	216,598 kWh (1%削減)	229,213 kWh	12,615kWh増加 4.77%増
	舟渡	114,395 kWh (2023年度実績)	113,251 kWh (1%削減)	118,782 kWh	5,531kWh増加 3.83%増
	本社	99,337 kWh (2022, 2023年度実績より計算)	98,344 kWh (1%削減)	88,250 kWh	10,094kWh減少 11.16%減
ガソリン使用量削減	東工	12,253 L (2023年度実績)	12,131 L (1%削減)	2,013 L	10,117L減少 83.57%減
	舟渡	1,294 L (2021年度実績)	1,255 L (3%削減)	1,096 L	159L減少 15.27%減
	本社	9,207 L (2023年度実績)	9,115 L (1%削減)	19,875 L	10,760L増加 115.87%増
一般廃棄物削減	東工	1,782 kg (2023年度実績) リサイクル率:82.6%	1,764 kg (1%削減) リサイクル率:83.6%	1,595 kg リサイクル率:76.4%	169kg減少 10.47%減 リサイクル率:7.2%減少
	舟渡	680 kg (2021年度実績) リサイクル率:83.6%	659 kg (3%削減) リサイクル率:86.6%	639 kg リサイクル率:83.1%	21kg減少 6.02%減 リサイクル率:3.6%減少
	本社	793 kg (2021年度実績) リサイクル率:63.8%	769 kg (3%削減) リサイクル率:66.8%	915 kg リサイクル率:66.6%	146kg増加 15.37%増 リサイクル率:0.2%減少
水使用量削減	東工	1,097 m ³ (2021年度実績)	1,064 m ³ (3%削減)	1,497 m ³	433m ³ 増加 36.51%増
	舟渡	730 m ³ (2021年度実績)	708 m ³ (3%削減)	496 m ³	212m ³ 減少 32.05%減
	本社	874 m ³ (2022, 2023年度実績より計算)	865 m ³ (1%削減)	800 m ³	65m ³ 減少 8.44%減
容器・梱包材使用量削減		2,767 kg (2023年度実績)	2,739 kg (1%削減)	1,984 kg	755kg減少 28.3%減
環境配慮製品の 開発・設計 ①全体評価		総トータルで 66ポイント達成	総トータルで 242ポイント達成	総トータルで 320ポイント達成	総トータルで 78ポイント増加 32.23%増
②個別機種評価		環境配慮製品を 2機種	環境配慮製品を 3機種以上	環境配慮製品を 3機種設計完了	目標通り

※ は目標未達の項目である。

※ 化学物質に関しては、PRTR法の第一種及び第二種指定化学物質リストに該当する化学物質の使用はないため、「化学物質管理表」で保管量の管理のみとしている。

※ 本社の購入電力量削減及び水使用量削減の2024年度目標の基準は、部署の拠点移動に伴い在籍人数の大きな変動があったため、2022, 2023年度実績から本社在籍人数の比率を鑑みた計算値とした。

4. 1. 2 大阪・名古屋支店

取組項目		基準値	2024年度目標	2024年度実績	増加・減少数 削減率（増減）
購入電力 削減	大阪	6,463 kWh (2022年度実績)	6,334 kWh (2%削減)	7,208 kWh	874kWh増加 11.53%増
	名古屋	15,250 kWh (2022年度実績)	15,098 kWh (1%削減)	16,941 kWh	1,844kWh増加 11.09%増
ガソリン使用量 削減	大阪	9,334 L 2021年度実績	9,054 L (3%削減)	10,545 L	1,491L増加 12.97%増
	名古屋	8,176 L (2023年度実績)	8,094 L (1%削減)	7,787 L	307L減少 4.76%減
一般廃棄物 削減	大阪	216 kg (2023年度実績) リサイクル率:63.9%	214 kg (1%削減) リサイクル率:64.9%	216 kg リサイクル率:71.1%	2kg増加 0.19%減 リサイクル率:6.2%増加
	名古屋	249 kg (2022年度実績) リサイクル率:60.1%	246 kg (1%削減) リサイクル率:61.1%	260 kg リサイクル率:67.2%	14kg増加 4.46%増 リサイクル率:6.1%増加
水使用量 削減	大阪	数値化できないため節水取組課題を決め、その活動を実施する。			
	名古屋	60.0 m ³ (2022年度実績)	59.4 m ³ (1%削減)	67 m ³	8m ³ 増加 11.67%増

※ は目標未達の項目である。

※ 化学物質に関しては、PRTR法の第一種及び第二種指定化学物質リストに該当する化学物質の使用はないため、「化学物質管理表」で保管量の管理のみとしている。

※ 大阪支店は水の使用が共有のため、「水使用量」が把握できないので節水取組課題を決め、その活動を実施した。

4. 1. 3 全社合計

取組項目	基準値	2024年度目標	2024年度実績	増加・減少数 削減率（増減）
購入電力 削減	454,231 kWh	454,231 kWh	460,394 kWh	6,163kWh増加 1.36%増
ガソリン使用量削減	40,264 L	40,264 L	41,316 L	1,052L増加 2.61%増
一般廃棄物削減	3,783 kg	3,783 kg	3,624 kg	159kg減少 4.2%減
水使用量 削減	2,761 m ³	2,761 m ³	2,860 m ³	100m ³ 増加 3.61%増
容器・梱包材使用量 削減	2,767 kg	2,767 kg	1,984 kg	783kg減少 28.3%減
環境配慮製品の 開発・設計 ①全体評価	総トータルで 66ポイント達成	総トータルで 242ポイント達成	総トータルで 320ポイント達成	総トータルで 78ポイント増加 32.23%増
②個別機種評価	環境配慮製品を 2機種	環境配慮製品を 3機種以上	環境配慮製品を 3機種設計完了	目標通り

※ は目標未達の項目である。

※ 化学物質に関しては、PRTR法の第一種及び第二種指定化学物質リストに該当する化学物質の使用はないため、「化学物質管理表」で保管量の管理のみとしている。

4. 1. 4 全社のCO₂排出量

2024年度排出量（全社）： 376,399kg-CO₂

項目		使用量	排出 係数	CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	CO ₂ 排出割合	CO ₂ 排出量 地域別合計	
電力 (kWh)	東工	229,213	0.619	141,883	0.377	270,036	
	舟渡	118,782	0.619	73,526	0.195		
	本社	88,250	0.619	54,627	0.145		
	大阪	7,208	0.419	3,020	0.008		10,152
	名古屋	16,941	0.421	7,132	0.019		
	合計	460,394		280,188	0.744		
ガソリン (L)	東工	2,013	2.320	4,671	0.012	53,324	
	舟渡	1,096		2,543	0.007		
	本社	19,875		46,110	0.123		
	大阪	10,545		24,463	0.065		42,528
	名古屋	7,787		18,065	0.048		
	合計	41,316		95,852	0.255		
LPG (kg)	東工	114.4	3.000	343	0.001	343	
都市ガス (kg)	名古屋	7.2	2.290	16	0.000		16
全社合計				376,399	1.000		

4. 2 2025年度以降環境経営目標

4. 2. 1 東京工場・舟渡サポートセンター・本社CSセンター

取組項目		基準値	2024年度実績	2025年度目標	2026年度目標
二酸化炭素削減		323,360 kg-CO ₂	323,703 kg-CO ₂	320,126 kg-CO ₂	316,893 kg-CO ₂
購入電力削減	東工	229,213 kWh (2024年度実績)	229,213 kWh	226,921 kWh (2024年度1%削減)	224,629 kWh (2024年度2%削減)
	舟渡	118,782 kWh (2024年度実績)	118,782 kWh	117,594 kWh (2024年度1%削減)	116,406 kWh (2024年度2%削減)
	本社	88,250 kWh (2024年度実績)	88,250 kWh	87,368 kWh (2024年度1%削減)	86,485 kWh (2024年度2%削減)
ガソリン使用量削減	東工	2,013 L (2024年度実績)	2,013 L	1,993 L (2024年度1%削減)	1,973 L (2024年度2%削減)
	舟渡	1,096 L (2024年度実績)	1,096 L	1,085 L (2024年度1%削減)	1,074 L (2024年度2%削減)
	本社	19,875 L (2024年度実績)	19,875 L	19,676 L (2024年度1%削減)	19,478 L (2024年度2%削減)
一般廃棄物削減	東工	1,595 kg (2024年度実績) リサイクル率:76.4%	1,595 kg リサイクル率:76.4%	1,579 kg (2024年度1%削減) リサイクル率:77.4%	1,563 kg (2024年度2%削減) リサイクル率:78.4%
	舟渡	639 kg (2024年度実績) リサイクル率:83.1%	639 kg リサイクル率:83.1%	632 kg (2024年度1%削減) リサイクル率:84.1%	626 kg (2024年度2%削減) リサイクル率:85.1%
	本社	915 kg (2024年度実績) リサイクル率:66.6%	915 kg リサイクル率:66.6%	906 kg (2024年度1%削減) リサイクル率:67.6%	897 kg (2024年度2%削減) リサイクル率:68.6%
水使用量削減	東工	1,497 m ³ (2024年度実績)	1,497 m ³	1,482 m ³ (2024年度1%削減)	1,467 m ³ (2024年度2%削減)
	舟渡	496 m ³ (2024年度実績)	496 m ³	491 m ³ (2024年度1%削減)	486 m ³ (2024年度2%削減)
	本社	800 m ³ (2024年度実績)	800 m ³	792 m ³ (2024年度1%削減)	784 m ³ (2024年度2%削減)
容器・梱包材使用量削減		49 箱 (2024年度実績)	49 箱	49 箱 (2024年度1%増加)	50 箱 (2024年度2%増加)
環境配慮製品の開発・設計 ①全体評価		総トータルで 66ポイント達成	総トータルで 320ポイント達成	総トータルで 242ポイント達成	2025年度完了後 決定予定
②個別機種評価		環境配慮製品を 2機種	環境配慮製品を 3機種設計完了	環境配慮製品を 3機種以上	2025年度完了後 決定予定

大阪・名古屋支店

取組項目		基準値	2024年度実績	2025年度目標	2026年度目標
二酸化炭素削減		52,681 kg-CO ₂	52,696 kg-CO ₂	52,154 kg-CO ₂	51,687 kg-CO ₂
購入電力削減	大阪	7,208 kWh (2024年度実績)	7,208 kWh	7,136 kWh (2024年度1%削減)	7,064 kWh (2024年度2%削減)
	名古屋	16,941 kWh (2024年度実績)	16,941 kWh	16,772 kWh (2024年度1%削減)	16,602 kWh (2024年度2%削減)
ガソリン使用量削減	大阪	10,545 L (2024年度実績)	10,545 L	10,439 L (2024年度1%削減)	10,334 L (2024年度2%削減)
	名古屋	7,787 L (2024年度実績)	7,787 L	7,709 L (2024年度1%削減)	7,631 L (2024年度2%削減)
一般廃棄物削減	大阪	216 kg (2024年度実績) リサイクル率:71.1%	216 kg リサイクル率:71.1%	213 kg (2024年度1%削減) リサイクル率:72.1%	211 kg (2024年度2%削減) リサイクル率:73.1%
	名古屋	260 kg (2024年度実績) リサイクル率:67.2%	260 kg リサイクル率:67.2%	257 kg (2024年度1%削減) リサイクル率:68.2%	255 kg (2024年度2%削減) リサイクル率:69.2%
水使用量削減	大阪	数値化できないため節水取組課題を決め、その活動を実施する。			
	名古屋	67.0 m ³ (2024年度実績)	67.0 m ³	66.3 m ³ (2024年度1%削減)	65.7 m ³ (2024年度2%削減)

備考

①2025年4月18日のエコアクション21全体会議により、2025年度の目標はコロナ禍の影響がなくなった「2024年度」を基準年度とし、「総量比で1%削減」で活動することとした。2026～2027年度の目標は、それぞれ「2024年度総量比で2%削減」、「2024年度総量比で3%削減」とした。

②二酸化炭素削減は、「東京工場、舟渡サポートセンター、本社CSセンター」は「購入電力量、ガソリン使用量及びLPG使用量」、「大阪支店、名古屋支店」は「購入電力量及びガソリン使用量」より算出した。

③容器梱包材使用量削減チームは今年度よりアルミケース等「通い箱」の使用件数を指標とし、活動することとした。

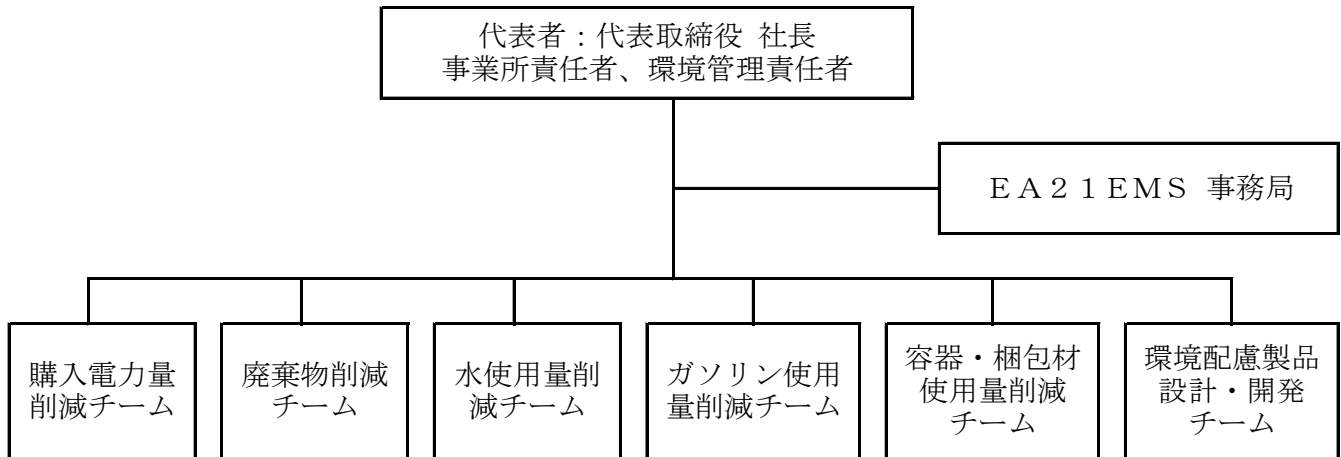
全社合計

取組項目	基準値	2024年度実績	2025年度目標	2026年度目標
二酸化炭素削減	376,040 kg-CO ₂	376,399 kg-CO ₂	372,280 kg-CO ₂	368,580 kg-CO ₂
購入電力削減	460,394 kWh	460,394 kWh	455,790 kWh	451,186 kWh
ガソリン使用量削減	41,316 L	41,316 L	40,902 L	40,489 L
一般廃棄物削減	3,695 kg	3,695 kg	3,588 kg	3,552 kg
水使用量削減	2,860 m ³	2,860 m ³	2,832 m ³	2,803 m ³
容器・梱包材使用量削減	49 箱	49 箱	49 箱	50 箱
環境配慮製品の 開発・設計 ①全体評価	総トータルで 66ポイント達成	総トータルで 320ポイント達成	総トータルで 242ポイント達成	2025年度完了後 決定予定
②個別機種評価	環境配慮製品を 2機種	環境配慮製品を 3機種設計完了	環境配慮製品を 3機種以上	2025年度完了後 決定予定

第5章 環境経営活動

5.1 組織体制について

当社の環境経営方針【基本理念】に基づき、環境管理責任者・事業所責任者・EA21EMS事務局及び活動チームが中心となって環境負荷削減活動を進めると共に、環境経営システムの定着及び環境に関して遵法及び継続的改善に取り組みました。



※各役割については、弊社「環境経営マニュアル」による

5.2 各活動チームの2024年度の実績

全社の環境経営目標を達成するために、事業所責任者及び環境管理責任者のもと、実質的な活動として目標項目毎に「活動チーム」を編成し、1/4期毎に活動内容のP. D. C. A進捗管理を行い、年度末に活動結果と評価をまとめています。各チームの主要取組内容は以下の通りです。

(1) 環境配慮製品設計・開発チームの取り組みについて

年度活動計画	活動内容
①今期対象製品を選定する。	構想時ポイント ・冷凍機付衝撃試験機規格対応開発 60ポイント
②構想設計時に環境ポイントを計画する。 (右記、「構想時ポイント」)	・ミューレン破裂試験機モデルチェンジ 92ポイント
③計画したポイントに従って設計を行うと共に、更なるポイント獲得(向上)にも取り組む。	・ベンドグラフRoHS指令対応 90ポイント
④開発完了時に「最終獲得ポイント」の集計を行い、結果についてレビューする。	獲得ポイント ・ベンドグラフRoHS指令対応 120ポイント獲得
⑤進捗の確認については、(右記)にて四半期毎に担当者が「実績」及び「進捗状況/是正策」を記入し、責任者によるレビュー(評価/指示)を行う。	・ミニテストプレスRoHS指令対応 120ポイント獲得 ・ラボプラスミルμモデルチェンジ グリーン調達、RoHS指令対応 80ポイント獲得
	※合計3機種 320ポイント

(2) 購入電力削減チームの取組について

年度活動計画	具体的展開	活動内容
①空調管理：必要以上の暖め過ぎ・冷やし過ぎが無いようにエアコンの調節を行い、不要な場所、不要な時期（4～6月・10～12月等）は電源OFF	6～9月（夏季）：WBGT値警戒未満・12～3月（冬季）：19℃を目安に必要な暖め過ぎ・冷やし過ぎが無いようにする。エアコンの設定温度を夏季はWBGT値警戒未満に合わせて設定変更して、扇風機などの併用により冷気を廻す。冬季は加湿器の使用により湿度を上げて、体感温度を上げる。ブラインドの調節を行い、エアコンの効率を上げる。	●夏季：クールビズ ●冬季：衣服で調整する ●ポスターの掲示
②照明管理：休憩時間及び使用していないエリアの消灯	休憩時間の消灯及び使用していないエリアの消灯。	●休憩時間の消灯確認 ●蛍光灯の削減（間引き）
③待機電力の削減：IT関連機器・加工機及び製品検査不使用時（無駄な電源ONを回避）	就業後の不使用PCモニタの電源OFF。加工作業・製品検査で長時間持ち場を離れる場合、加工機、製品の機能を損なわない範囲で電源を切る。	●終業後の終夜運転機以外の停止確認
④共同施設・設備の電源管理の徹底を図る：トイレ・エントランス・食堂・会議室・コンプレッサー・サイクル変換機・恒温恒湿室など。	●コンプレッサー・サイクル変換機の管理は管理者を決めて手順書を定め、機械室扉に掲示する。 ●こまめに消灯するように啓蒙	●各所消灯・終業後のコンプレッサー・サイクル変換機の機械室の確実な電源OFF確認
⑤社内パトロールの実施	パトロールを実施し、使用していないエリアの消灯、エアコン設定温度などの確認を実施する。	●節電チェック対策表に確認内容記載

(3) 廃棄物削減チームの取組について

年度活動計画	具体的展開	活動内容
①各フロアでゴミ廃出量の記録を取り、月の集計を掲示して目標達成の意識付けを図る。	エントランスに設置された「はかり」で担当者が排出重量を記録する。週末に小集計と月末に全体の集計を行い、排出状況を毎月掲示する。	●担当者に適切なシールを貼るよう指導 ●ゴミ出しの手順書ポスターの掲示
②資源ゴミを一般廃棄ゴミに出さない様に分別監視し、リサイクル対象品と廃棄物の分別の徹底を図る。	一般廃棄物の分別を確認し、資源ゴミは資源回収用箱に入れさせるように指導を行う。	●分別をメール・朝礼などで啓蒙 ●ポスターの掲示
③資源ゴミ（ダンボール・コピー用紙・新聞・カタログなど）の引き取りを回収業者に依頼し、質量を測定する。	ダンボール保管場所が一杯になったら管理部に連絡し回収業者を呼ぶ。分類別に質量を測定し記録する。	●質量を記録する。
④リサイクルの種類を増やし、一般廃棄ゴミを削減する。	更にリサイクルできるものをピックアップし回収のルールを作成する。	●リーダー、メンバーが中心となり、書類リサイクルの啓蒙、朝礼での伝達
⑤産業廃棄物の処理を適切に行う。	4半期ごとにマニフェスト管理票を確認する。「産業廃棄物顧客引取品管理簿」で、排出内容と質量を記録する。	●半期ごとに適切に記録されていることを確認する。

(4) 容器・梱包材使用量削減チームの取組について

年度活動計画	具体的展開	活動内容
①梱包材の使用量の確認	梱包材の使用量の把握する。	●梱包材の使用量を記録する。 ●アルミケースの使用を啓蒙する。
②外部より持ち込まれる製品・部品に関して納品に使う通い箱の奨励を図る。	通い箱に変更できる購入品、定期荷物を特定して奨励する。	●啓蒙活動を行う。
③梱包材のリサイクルの徹底	●ポスターにて「梱包材のリサイクル」を徹底させる。 ●使用部署への周知徹底	●ポスターの掲示 ●使用部署への啓蒙

(5) ガソリン使用量削減チームの取組について

年度活動計画	具体的展開	活動内容
①車をできる限り使用しない	車での長距離移動をできる限り行わず、公共の交通機関を利用する。都内の公共交通機関で済む場合は、可能な限り使用しない。	●朝礼にてアナウンス
②空気圧をチェック	給油時に、タイヤの空気圧をチェックする。	●自動車運行日報にチェック欄を設け、空気圧チェック実施を管理する。
③車の荷物をできる限り軽くする。	荷台に不要な物を置かない（降ろす）。	●5S活動にて実行
④ガソリン使用量削減のための啓蒙を行う。	ポスター、回覧、朝礼にてエコ運転を啓蒙する。	●エコドライブ10のすすめ掲示 ●安全ドライブ5箇条掲示

(6) 水使用量削減チームの取組について

年度活動計画	具体的展開	活動内容
①洗面所止水栓の調節	必要最低限の流量に調節する。 （事例：ハンドル全開時流量蛇口全開で約2～30/分に調節（手洗いで適切な流量約40/分）	●随時、流量を確認し、調整を行う。
②器具のチェック	水漏れがないか各器具をチェックし、改善を図る。	●蛇口の点検、水漏れ箇所の点検
③垂れ流しの防止	水道の垂れ流しの防止を徹底する。ポスターにて「節水」の啓蒙を行う。	●ポスターの掲示。
④毎月、水道メータを記録する。その際、メータの増減から明らかに異常であると判断した場合は調査する。	毎月の水道使用量を記録し、問題があった時は原因究明及び適宜チェックを実施する。	●蛇口の漏れ点検など。

(7) グリーン購入取組チームの取組について

年度活動計画	具体的展開
グリーン購入品の推進。	社内消耗品においてグリーン購入を推進、その記録を残す。

第6章 環境経営目標の実績

6.1 環境負荷抽出結果報告

全社（東京工場、舟渡サポートセンター、本社CSセンター及び大阪支店・名古屋支店）における二酸化炭素排出量、廃棄物最終処分量、総排水量、及び資源（製品の原材料など）利用量の過去2年間の実績と今年度の結果は下記の通りです。

項目		単位	2022年度	2023年度	2024年度
温室効果ガス 排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	301,179	295,041	376,399
物質使用量	資源 投入量	t	74 (69tは主力製品生産量)	71 (66tは主力製品生産量)	76 (71tは主力製品生産量)
水資源投入量	上水道 使用量	m ³	4,107 (名古屋支店を除く)	5,823 (大阪支店を除く)	2,860 (大阪支店を除く)
総生産販売量	主力製品販売総重量	t	69	66	71
	容器・梱包材使用量	t	2.3	2.8	0.0
廃棄物量 (一般廃棄物)	最終 処分量	t	3.92	3.53	3.62
廃棄物量 (産業廃棄物)	排出量	t	7.9 (東京工場及び東京工場舟渡サポートセンターのみ)	9.4 (東京工場及び東京工場舟渡サポートセンターのみ)	19.6 (東京工場及び東京工場舟渡サポートセンターのみ)
水資源投入量	下水道 使用量	m ³	4,107 (名古屋支店を除く)	5,823 (大阪支店を除く)	2,860 (大阪支店を除く)

●物資使用量は、総製品販売量に紙購入量を加算した値である。

●容器・包装は、段ボール・エアパッキン・テープ等で、製品出荷時に使用するものである。

●廃棄物（一般廃棄物）最終処分量は、可燃ごみ、不燃ごみ、金属加工屑、廃プラスチックなどを合計した値である。

●水資源投入量と総排水量は同じとした。

第7章 環境経営活動の取組結果とその評価、次年度の取組内容

7.1 各チームの年度末評価と事業所責任者の評価

環境配慮製品設計・開発チーム

2024年度は、下記製品が完了しました。

製品名：①ベンドグラフ

120ポイント達成

②ミニテストプレス

120ポイント達成

③ラボプラストミルマイクロ

80ポイント達成

①ベンドグラフ

削減項目	製品群の重み	構想時ポイント	完了時ポイント	削減内容の説明
RoHS指令対応	A (主力26製品)	60	<u>120ポイント</u> Aクラス(3点)×40ポイント	材質、表面処理、 購買品、半田

②ミニテストプレス

削減項目	製品群の重み	構想時ポイント	完了時ポイント	削減内容の説明
RoHS指令対応	A (主力26製品)	90	<u>120ポイント</u> Aクラス(3点)×40ポイント	材質、表面処理、 購買品、半田

③ラボプラストミルマイクロ

削減項目	製品群の重み	構想時ポイント	完了時ポイント	削減内容の説明
グリーン調達	B	20	<u>20ポイント</u> Bクラス(2点)×10ポイント	購買品
RoHS指令対応	(主力26製品以外の総合カタログ掲載製品)	60	<u>60ポイント</u> Bクラス(2点)×30ポイント	機械／電気図面、購買品

	チームの年度末評価	事業所責任者の評価
環境配慮製品	予定外でラボμの開発から80ポイントを獲得し、目標を達成することができました。	開発の進捗に全てが左右されてしまう取り組みですが、僅かな兆しに期待を込めて工夫をした取り組みだったと言えます。

東京工場

	チームの年度末評価	事業所責任者の評価
購入電力削減	増加の原因としてヒーター使用製品の夜間運転が2023年度：50件に対して2024年度では81件と多く出荷に伴う案件のため問題ないと思われます。また、社員の工夫により、夜間運転を利用したの検査を行っていただいたことはよい傾向だと考えられます。来期も無駄な電力を抑えつつ電力削減を目指していきたいと考えております。	年間を通して目標値に対する結果について、しっかりと原因調査をして考察ができていたと思います。
廃棄物削減	今年度の最終削減率は90%の結果でした。月によって前年度を上回る排出量の時もありますが、全体的には少ない傾向でした。	大きな成果を得にくい取り組みですが、せっかく得たデータなので多方面で活用できれば良いと思います
水使用量削減	1月中旬までクリープ試験機にて冷凍機を使用した影響から使用量が増加しています。2月・3月は例年の使用量に戻っています。ミニテストプレスの調査を実施しました。今年度は水量計を使用して各装置の使用量の調査になりました。	期の途中から担当になり、地道な活動に対して戸惑いもあったと思いますが、水使用量調査などで進捗があったのは良かったです。
ガソリン使用量削減	今年度は昨年度から台数や使用状況に大きな変化があった年ですので、当初より今年度は目標をクリアしつつ現状の把握と改善点を探ることを目標にしておりました。来年度は今年度の分析結果を参考に、HV車の活用を進めるなどで目標を達成できるよう計画して参ります。	車両入替検討の際、走行距離が約13万kmでしたが、HV車への入替を進言したことは、既定路線には囚われないこの取組のことを考えた良い発案でした。

舟渡サポートセンター

	チームの年度末評価	事業所責任者の評価
購入電力削減	気候が安定せず、体調管理のためこまめに調整していた結果、消費電力量の増加に繋がったと考えています。来期は健康に気を付けつつ、削減できるよう意識致します。	一般消費電力(製品電力使用量除く)での8.1%増、3月は気温が高い日が多くエアコンの使用量減少(間引き運転)実施、そして電力削減を啓蒙活動しての増加は残念。
廃棄物削減	目標削減率3%に対して、ちょうど97%と目標を達成する事が出来ました。ただ舟渡SCの従業員が増えたため、来期以降目標の達成が難しくなるのが課題です。書類関係のペーパーレス化は進めていくべきだと思い、変えられる物を電子化に出来れば廃棄物を更に減らせると思います。	目標達成は評価できる。しかし、同月3月に於いて、リサイクルが大幅削減、一般廃棄物は増加が結果となるのが気になる。一般廃棄物の増加がなければ大幅な削減に繋がったのが残念です。よって、この増加減の原因を把握できればより良いと感じます。
水使用量削減	■ウエザオメータ等出荷台数：7台(前年度比10台⇒7台) ■UVTest出荷台数 2台(前年度比 1台⇒2台) ■生活用水(年間約180m³) 出荷台数(試運転含む)に適した使用量となりました。 来期は引き続き詳細な使用量チェックと啓蒙活動、水漏れ訓練に取り組んでいきます。	4/4期はアトラス値上げに伴う駆け込み購入で入荷台数が多く試運転が増えたことは致し方なし。
ガソリン使用量削減	2021年度実績値の3%削減目標に対して-13%減で目標達成となりました。 大田区への外注先廻りの回数が21回減ったことが最も大きな要因となります。 昨年度の総走行距離11929kmに対し、今年度は12505kmと増えていますが、ガソリン使用量は560削減されています。これは、新車車両による燃費の向上が起因していると考えられ、目標達成の1つの要因となりました。 2025年度も引き続き、適正な車両使用を啓蒙し、ガソリン使用量削減に努めます。	2/4期からの新車導入による高燃費が寄与しているのが大いに影響している。しかし、太田区方面は前年度に比べ電車利用に切り替えているにも関わらず走行距離が抑えられなかったことは残念です。
容器・梱包材使用量削減	売上がアップにて使用枚数、使用キロ数が削減されていることに関しては一定の評価があると思います。 ただ、事業所責任者の指摘の通り、売上との比率で比べるとは厳しいので来期の方向性を見直す必要があると思います。	結果、ダンボール使用量が減ったことは評価できるが、昨年以上の売上げにも関わらず前年比マイナスの根拠が欲しい。同時にアルミコンテナの使用量減少も矛盾する。

本社CSセンター

	チームの年度末評価	事業所責任者の評価
購入電力削減	目標達成。年間通して約10%削減率を達成いたしました。昨年度より更に本社の節電意識は高まっており、エコ担当者以外が自らエアコンの温度設定を気に向け行動に移すことや、デマンドコントロールの警報後に協力して対応を行うなど、電力削減の後押しをしていただきました。今後も引き続き電力削減の意識を高めるよう周知活動を行いたいと思います。	目標達成および10%以上の削減率を評価します。全員の意識向上への取組みも良かったと思います。
廃棄物削減	通年で断続的に10Kg以下の廃棄物が排出される合間に作業着等のイレギュラーな廃棄物が発生しました。このため、削減目標未達となりました。	日常的排出物削減の継続的な取組みを評価します。
水使用量削減	増員を踏まえて過去2年間の1人当たり水使用量を基に目標値を設定したため、年度目標比92%で目標達成となった。 人数が増えたことにより、今年度は2025年度以降の目標値の基準を引くための年という位置づけであった。年間を通じてほぼ異常なく安定した数値を記録することができたため、次年度以降の活動に向けてよいデータを取ることができたと思う。	本社の増員により柔軟に目標設定を見直し、的確な分析を行い、目標達成したことを評価します。
ガソリン使用量削減	今期は技術サービス課の本社異動に伴う車の台数増加（9台→15台）により、ガソリン使用量が大幅に増加しました。 そのため、これまでのデータをもとにした削減目標の達成ではなく、来期以降の目標設定のためのデータ取りの一年となりました。 来期の目標設定、ならびに目標達成に向けた取組みが重要になるかと思うので、引き続き業務効率化とガソリン使用量削減のバランスを取った活動を啓蒙していきたい。	車両増加による影響を的確に捉えた上で、来期に向けた準備に努めたことを評価します。

大阪支店

	チームの年度末評価	事業所責任者の評価
購入電力削減	年度総括として未達成の結果となりましたが一年間を通じて、ショールーム活用など電力消費の機会が増えた事が影響したものと考えます。各自こまめな節電への協力は確認できていますので、2025年度も取り組んで頂くよう啓蒙活動を継続していきたいと考えます。	来年度も、個人の節電意識をさらに高めるために、「消費電力の見える化」や「朝礼での啓発活動」を積極的に推進していきましょう。
廃棄物削減	2024年度は未達成となりましたが、最終的に削減率101%と達成まであと1%という結果となりました。少しの心がけで達成できる数値であったと考えますので、2025年度以降も引き続き排出量削減に取り組みたいと考えます。	第4四半期では、廃棄量は削減傾向となり、最終的には昨年比1%の超過で着地しました。昨年以上に製品や部品の出荷量が増加する中で、梱包資材を最小限に抑えることができた点は、高く評価できます。
水使用量削減	引き続き節水に心がける。	引き続き啓蒙する。
ガソリン使用量削減	年度総括としても、2024年度は結果的に未達成となりました。人員増加及び若手社員の単独訪問件数増加により車の稼働率増加が影響していると考えます。2025年度以降も継続して燃費向上や公共機関の活用等でガソリン使用量削減に取り組んでいきたいと考えます。	昨年比で16%の超過となりましたが、人員の増加や単独訪問の増加を踏まえると、一定の増加はやむを得ないものと考えられます。一方で、アイドリングストップ車を優先的に使用した点は、取り組みとして高く評価できます。

名古屋支店

	チームの年度末評価	事業所責任者の評価
購入電力削減	電力消費量の多い空調のタイマー設定や温度調整、サーキュレーターの利用で最適化に努めた来だが、修理対応を社内で行ったりサンプルテストで来社頂きショールームや作業場の空調を使用する機会が増えたのも大きな要因かと思えます。比較的過ごしやすい温暖な日に空調を止め窓を開けることあるが、アレルギーにより空調を使用する日も増えております。	空調のタイマー設定や温度調整、サーキュレーターの活用など、日常的な電力最適化への取り組みは着実に進んでおり、高く評価できる。
廃棄物削減	トータルとして僅かに目標値より排出量が増えてしまったが受注好調によって納品数が増えているのが大きな要因。徹底した啓蒙により分別を意識づけているので、あとはプラスチックコンテナの適正利用と積極的利用の呼びかけをしてエコ梱包を心掛けたい。	受注増加に伴う納品数の増加という背景が明確であり、全体の業務好調さと直結している点は前向きに捉えることができる。
水使用量削減	昨年度後半に漏水が疑われ、4月に点検とパッキン交換してからは、水使用量は安定してしる。来年度4月以降も徹底して節水と最低限の使用量に留めたい。	漏水の早期発見と対応ができたことは非常に良い判断。その結果、水使用量が安定した。
ガソリン使用量削減	トータルとして目標値に対して昨年より削減することが出来た。要因としては移動距離を考慮しての営業車の適正利用、技サとのスケジュール共有で同行、営業途中で修理依頼品の引取など、出掛けを減らし業務効率アップしガソリン使用量を削減できた。	昨年度より削減できた点は非常に評価できる。業務の中で工夫を重ねた結果が成果に結びついていることが分かる。非常に効果的な取り組みであった。

7.2 2025年度以降の環境経営目標の設定と展開について

(1) 2025年度以降の「環境経営目標」の設定

2024年4月18日のエコ活動メンバーの全体会議の中で、2025年度の目標設定については、2024年度の実績値をベースとして、-1%の削減目標にて活動することを確認した。

※但し、大阪支店の水使用量削減活動は「課題を決めての活動」のみとする。

(2) 環境配慮製品開発の目標設定

環境配慮製品設計・開発は目標242ポイントと設定し、当社の環境へのアピールポイントとして継続して取り組むこととする。

7.3 その他の環境活動

(1) 教育・訓練の実施

本年度は新入社員にE A 2 1についての講習を行った。

また緊急対応として「廃油流出時の対応」及び「避難訓練」を実施した。

● 教育訓練計画表及び実施記録（2024年4月～2025年3月）

月	内容	対象	講師	実施記録
4	チーム活動の前年度総括 全体会議	各チーム 全チーム員	—	活動記録 議事録
5	特になし	—	—	—
6	緊急事態対応訓練 内部監査（EA21事務局） マネジメントレビュー	対象者 事務局 サンビ会	事務局 — —	活動記録 報告書 議事録
7	チーム活動の進捗管理(1/4期)	各チーム	—	活動記録
8	中間審査	全社員	—	報告書
9	特になし	—	—	—
10	チーム活動の進捗管理(2/4期)	各チーム	—	活動記録
11	特になし	—	—	—
12	特になし	—	—	—
1	チーム活動の進捗管理(3/4期)	各チーム	—	活動記録
2	特になし	—	—	—
3	特になし	—	—	—

(2) 地域貢献

取り組みとして舟渡サポートセンターにて「使用済み切手の収集」及び本社CSにて「ペットボトルのキャップの収集」を活動、使用済み切手は「特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター様」に、ペットボトルキャップは「中ノ郷信用組合様」を通じ、認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会様」へお渡ししました。
また名古屋支店では5S活動の一環として週1回、会社周りの掃除を実施しました。

特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター様からのお礼状



特定非営利活動法人
日本国際ボランティアセンター
〒110-0005 東京都台東区上野5-22-1 東野ビル4F
TEL: 03-3834-6559 FAX: 03-3835-0519
E-mail: jvc@jvc-net.jp URL: https://jvc-net.jp

2024年12月14日

株式会社東洋紡機製作所 品質保証室 御中

お礼状（兼）受領書

このたびは物品寄付を通じてJVCの活動をご支援いただき、まことにありがとうございました。
皆さまからお寄せいただいた物品は、専門業者やコレクターさんの買取などにより換金し、JVCの活動資金となって、厳しい状況に置かれている世界の人々のための活動に役立てられます。このような物品を通じての支援は近年1,000万円/年を超えており、人々の暮らしを支える大きな力となっています。

<買い取り金額の目安>

- 使用済み切手 …10kgごとに約15,000円
- 外国硬貨 …20kgごとに約35,000円

◆パレスチナ・ガザ緊急支援を続けています



2023年10月以降、空襲や地上侵攻の激しさが増すガザ地区で、JVCは現地民間団体やNGOを通じて、子どもたちのための食糧支援や、現金（モバイルマネー）給付支援を進めています。また、2歳以下の子どもの健康や栄養失調予防の高カロリービスケットの配布、母親へのカウンセリングの活動もスタートしています。

例えば使用済み切手は約1kgでおおよそ1,500円に換金されますが、この金額は、乳児の1週間分の食糧を支払える額に相当します。

最後になりましたが、昨今の郵便料金値上げのため様々な検討をおこなった結果、2024年10月以降はお礼状（受領書）の送付を希望者のみとさせていただきます。また、印刷メールによる発行へと切り替えさせていただきました。今後もお礼状をご希望の方は、右記QRコードよりメールアドレスなどをご登録ください。郵送をご希望の方は郵送も選択可能です。
皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター（JVC）

物品支援係 一岡

〒110-0005 東京都台東区上野5-22-1 東野ビル4F

TEL: 03-3834-2388/FAX: 03-3835-0519

E-Mail: mono@jvc-net.jp URL: https://jvc-net.jp/thanks-mono

第8章 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

8.1 「環境法規制要求事項一覧及び遵守評価表」による自己チェック結果

当社が該当する、「環境基本法」から「労働安全衛生法」までの19法令の要求事項に関して、EMS事務局によりチェックを実施した結果、抵触する事項は0件であり、早急な改善を要する事項も0件でありました。また、緊急事態の発生も今年度も0件でした。

東京都知事宛に廃棄物処理法第12条の3第7項の規定に基づき、2025年4月3日に「産業廃棄物管理票交付等状況報告書」を提出しました。

フロン排出抑制法（フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律）により、業務用冷凍空調機器（当社ではエアコンのみ）については3ヶ月に1回チェックを行っています。

また、圧縮機電動機定格出力7.5kW以上50kW未満のエアコンについては業者による点検を3年に1度実施しています。

8.2 関連機関等からの外部チェック結果

当社が該当する、省資源と廃棄物、省エネと気候変動、自然保護等の各法規制等に抵触する旨の指摘及び訴訟は、関係機関等からはありませんでした。

当社はトップダウンにより、遵法精神に基づく環境経営活動及び企業活動を全従業員に強く意識付けています。

第9章 代表者による全体評価と見直しの結果

6月9日の「サンビ会」（全役員・部長・次長の参加会議）において、2024年6月実施の内部環境監査の活動結果をふまえた報告を実施しました。その評価内容は以下の通りです。
2024年度 EMSマネジメントレビューより抜粋。

9.1 環境活動報告及び見直しに関して

① 内部環境監査・外部審査の結果及びフォローアップ状況

1) 内部環境監査は、全社を対象とし舟渡サポートセンターで2024年6月20日及び21日に実施。「不適合事項」について「是正処置書」を発行し品質保証室にて適切に管理対応している。

2) 中間審査を2024年8月26日及び28日に実施。また、指示事項・推奨事項は適切に管理対応している。

② 社外コミュニケーションの取り組み状況(苦情を含む)

- 1) 使用済み切手の収集を舟渡サポートセンター、ペットボトルキャップの収集を本社CSにて実施。また名古屋支店では5S時に週一回、外回りの清掃を実施
- 2) 外部からの苦情はなく特段問題はない。

③ 組織の環境パフォーマンス（教育訓練・社内啓蒙または目立った取り組み）

- 1) 社内啓蒙では、新入社員にEA21についての講習を開催。

④ 環境経営方針・環境経営目標及び取り組み状況の把握と評価

事業所責任者、サンビ会による取り組み及びその評価に関しては、特段問題はない。

⑤ 是正処置及び予防処置の状況（緊急事態への準備含む）

- 1) 是正処置： ①の内容の通り、内部監査・外部審査の対応は管理されている。
- 2) 予防処置： 予想される新たな環境負荷や現状から大きな環境負荷に繋がるような事象はない。
- 3) 緊急事態の対応は、漏水事故、廃油流出の2訓練を隔年交互に緊急対応訓練を実施することに決定し、本年度は廃油流出事故緊急対応訓練を東京工場で実施。

⑥ 前回までのマネジメントレビューの結果に対するフォローアップ（アウトプット事項）

目標値に関して、その目標に対し、年度途中であまりにも乖離が生じた場合、目標変更を検討し、現状にあった目標に設定し直してください。
⇒大きく乖離することはなく、当初の目標値にて変更の必要はなかった。
また今年度の目標は、コロナの影響等がほぼなくなり、通常営業となった2024年度を基準とし、その1%削減とした。

⑦ 環境側面に則した法律等の遵守状況

- 1) 「環境法規制等要求事項一覧及び遵守評価表」にてチェックを実施。
新たな法規制などについても適宜、情報を入手し対応している。
特段問題なし。
- 2) 産業廃棄物管理票交付等状況報告書（東京都）、ごみ減量・再利用計画書（北区）及び事業用大規模建築物における再利用計画（板橋区）等は提出済。

9.2 全体評価に対してトップマネジメントによる全体評価と課題

① 購入電力削減

削減活動において購入電力は、東京工場・舟渡SC・大阪支店・名古屋支店を除き達成された。未達の理由として、ヒータ使用製品の検査とデモ機の使用が増えたことに加え、人員増加により空調設備の稼働率が上がったことが原因として考えられるが、デモ機がフル活用されることは本来の目的を果たせており、会社の発展を考えると望ましい結果と言える。また、近年は人材確保に力を入れており、社員が快適に業務に取り組める環境と節電目標値について、バランスを考える必要がある。

② ガソリン使用量削減

ガソリン使用量は、本社CSセンタと大阪支店を除き達成。本社CSセンタ技術サービス課の異動に伴い、営業車が大幅に増えたことが顕著に表れた。また、大阪支店は人員増加と若手社員の単独での顧客訪問が増えたことでガソリンの使用量が増加した。単独での顧客訪問ではなく、サービス部門と同行するなど、効率の良い営業活動に取り組むこと。

③ 廃棄物削減

廃棄物については、本社CSセンタ・大阪支店・名古屋支店を除き達成された。未達の理由として、製品出荷台数が増えたことにより、回収した梱包材の量が原因として考えられる。また2024年度は、作業着と安全靴の廃棄量が想定していた範囲を超えたことも原因として挙げられる。製品出荷台数が増えることにより、回収する梱包材の量が増えることは致し方ない部分もあるが、それらを再利用するなど、環境に配慮した企業として、活動を継続すること。

④ 水使用量削減

東京工場での水の使用量は、クリープ試験機・ファインラボプレス・冷付衝撃試験機他、水を使用する出荷検査が未達の理由として考えられる。名古屋支店では、トイレのパッキン劣化が原因の漏水が原因であったが、普段確認できない場所であることから、発見まで時間を要した。当社は水を使用する製品があるため、今後使用量が大幅に増えるようであれば、循環設備などについて検討する。

・指示事項

「2023年時点で審査員から各削減実行チームの状況が事業所毎に異なるので、画一的な削減目標を設定するのは違うのではないか。チームの状況に合わせて削減目標を設定すべき」との意見をいただき、2024年度は個別目標値を立てて活動をしてきたと報告を受けております。

しかし、個別目標設定の前に、新型コロナの影響が大きい年度の集計データをベースに中期計画を立てて進めてきたことと、現在、売り上げが好調であり、売り上げに連動して増えてしまう削減コンテンツも多々あることから目標との乖離も出ています。

起算ベースデータの設定が前述のとおりゆえ、そもそも、削減ベース値を中期計画の途中ではあるが、刷新する必要があるのではないかと感じます。

無理な計画を立てて活動するより、より活動員が意義を感じられる活動にしてほしい。よって、期の途中であっても目標値との間に大きな乖離が生じた場合は、目標値を実情に合ったものに変更すべきとも感じます。

以上：作成者 事務局 根岸 靖博